



第673号
令和3年7月23日
題字は二代真柱様
大阪市北区池田町13-17
天理教はるのひ分教会
TEL・FAX
06-6358-2630

隨氣ぐらしへ学びと読み
はるのひ館



▶はるのひホームページ
▶月次発行
▶1日1回
▶QRコード
▶09
▶天理教



『運命を作り変えるとは』①

『一日一回おさづけ』は今は亡き私の父・芝太七が夫婦で歩んだ信仰人生をみずからつぶさに書き残した貴重な記録の書です。身内のひいきを別にしても、これはまたとない実践と思案のすばらしい本なのでぜひ多くの人々に読んでほしいのです。人によって読み方も印象も違うでしょうが、参考にしてほしい第一番は運命を作り変えるという一点です。

運命を作り変えるには①運命通りに進めばどうなるか？そしてそれをどのような方向に変えたいのかを自覚していないといけません。②また、運命を変えるにはどうすればよいか分かり恐らく至難の業であるその方法を実践し続けなければなりません。

父母すなわち私の家の場合、①は子孫が続かない、短命で夫婦が長く連れ添わないもめ事が絶えないという三つの運命を三つともに変えることでした。

菩提寺の過去帳（その後焼失）をもとに父が作った家系図を見ると、最初の頃は年号が分かりませんが初めて明らかになるのは宝暦十一年（西暦1761年）ですから、江戸時代の中頃でしょう。

最初の頃から、子供がみんな幼くして亡くなり、店（麩の製造↓販売↓乾物問屋）を継ぐのはいつも養子だったのです。養子が悪いというわけではありません。むしろ養子は選ばれて来るのですから優秀な人が多い（祖父も父も養子）。

ただ、せっかく授かった子供が順調に育ってほしい、そしてせっかく結ばれた夫婦が末永く添い遂げたい。またせっかく血縁となった家族が仲良く暮らしたい、その素朴な望みをかなえることが念願だったのです。

その運命の大土木工事に取り掛かったのが、祖父・六代目甚之助だったのです。

六月月次祭祭典講話

会長 芝太郎

『一日一回おさづけの本について⑤』

皆さん、こんにちは。今月六月も縮小態勢、少人数の方々の月次祭をつとめて頂きありがとうございました。

ワクチン接種が広がり私も第一回目が終わりました。第二回目は七月五日に予定されています。先程お聞きしたところでは、高齢の方々の七く八割が第一回目が終わったようので、二回目も終わった方もおられるということですね。この調子でいけば七月中で六十五才以上の方はほぼ受けられるんじゃないかなあ。

来月あたりからぼちぼち元の月次祭に戻れるんじゃないかなと思っっています。皆さんも心づもりとしてぼちぼち生活のリズムを取り戻す、車で言えばエンジンをかける、そんな気持ちでおってもらったらいんじゃないかなと思います。

大阪布教のはじまり

では、いつものように信仰の勉強をさせてもらいましょう。『一日一回おさづけ』、父の書きましたこの本を中心に話を進めております。きょうもその続きで、父が布教に出かける。119ページですね。

いよいよ大阪布教に昭和二十六年五月一日、この天満の辺りに天理からやってきたんです。こうもり傘と五百円を持ってこの天満にやって来た。何故ここへ来たかという、この北側の方に、今は立派な鉄筋コンクリートの市営住宅が建ってますけれども、戦争が終わった直後はバラック、掘っ立て小屋みたいなね住宅が急増で建てられてたんですね。

その市営住宅に北田コマさんと一人息子が住んでいましたね。僕はその家を覚えてるんですよ。後で僕も来ましたから。一人息子は肺結核だったんです。当時多かったですね、怖い病気でした。結核の患者が出たら隔離され、家族は差別されるほど。北田さんは芝家の遠い親戚になるんです。詳しく言うともたややこしいからとにかく遠い親戚だった。それで父が修養科に行ってる間におたすけに通っていた。

父は自分自身が肺結核を助かったわけですからね。普通はなかなか助からない。亡くなる人が多かったのに、それを父

自身が経験してまずから修養科をしきりに勧めた。修養科では現実にごんごん助かっているから、私自身も助けて頂いたからは是非修養科に二人で入りなさい、助かりますよと言ったらこの北田コマさんはそんないらん、私はお医者さんに頼っているやと。今の医学はだんだん良くなってきてペニシリンとか薬ができてるしね。栄養を息子にはしっかりとらして。普通のこととしてたらそんなお金は手に入れません。闇の商売をしていた。僕はあまり詳しくは分からないけど、とにかく田舎とかどっか出かけて行ってね。着物とかを売って卵とか肉とかを買ってきてね、息子に食べさせますよ。だから私は精一杯、息子のために闇の商売までして良いものを食べさせている。良いお医者さんに良い薬をもらって頑張っているから大丈夫です。なかなか父の言うことを信じない。

昭和二十五年元旦、また訪ねて行ったら、息子は大みそかに咯血して死んでしまったと。お葬式を手伝ってあげたと書いてますけどね。とうとう北田コマさんは一人ぼっちになった。頼りにしてた息子がなくなったからね。それで父がそれなら私が引き取ってあげましょうと。一人では生活できにくしい寂しいやろうから私のとこにきなさいよ。おそらくコマさんは考えたと思うんやね。しかし、しょっちゅう来てくれ

てたし、信頼はできるかなというので、ほんじゃああなたの所に行くわということで天理へきて、修養科に入った。初めてこんな所があるのかと思った。修養科に入ったら同じ結婚の人がいるんですよ、それで助かって三ヶ月で帰っていくわけですよ。だから目の当たりにそれを見て、芝さんが言ったのはこのことかと。言う通りにしていたら息子も助かったかもしれない。そんな世界があるとは信じられなかったんやからね。そういうことで、北田コマさんは丹波市にあった昔のはるのひの詰所に入ることになった。留守番と管理をしてください。修養科生ができたならその修養科生の世話をしてください。そうなると、天六の家はからっぽになる。そこで布教の拠点に使ってくれたらいいわというのでそこを借りると言うか使わせてもらうことになった。だから父はいよいよ布教だここへやって来た。あばら家と言うかほったて小屋に住まいをすることになった。トタン屋根、ちゃんとした屋根じゃない。トタンの波板をかぶせただけの屋根。穴が開いていたから雨が降ったら漏ってくる。

北田コマさんの場合

結論から言うと、人間はものの見方・考え方によって行動の生き方が決まる。だから、ものの見方・考え方はとても大事

です。ところが、自分の目で自分の目を見ることができないように、自分がどういふもの見方・考え方をしているかは分からない、自覚できない。その典型的な例が、北田コマさんの場合です。

人間というのは、自分以外のもの見方があるとは考えられないんですよ。北田コマさんからすれば息子が肺結核になった、これは大変だ、なんとか助けてやりたい。それにはもうお医者さんしかないし良い食べ物で栄養をつけよう体力つけさせようと。今でいう免疫力をつけようということですよ、そういう考え方で一生懸命やっていた。父がいや信仰で助かるよ、私自身が助かったんやから。そう言ってもそういうもの見方ができないんですよ。だからね、何が難しいかと言うと人の心が一番難しい。もの見方・考え方を要するというのが一番難しい。

身体についての見方・考え方

例えば、自分のこの体について皆さんはどう思ってるでしょう。自分の体をよく眺めた事ありますか。年配の方なんか六十年も七十年も使ってきたわけやけれどね、その自分の体に対してどう見ているでしょう。おやさまは「身は貸しもの・借りもの」やでとおっしゃる。とにかく一般的には自分

の体に無頓着ではないでしょうか？

自分のために一番働いてくれているのはこの体なんです。中でも心臓なんか一日に十萬回も脈動してくれている。今もです。一回でも止まったらもう僕はここにおられない。そして皆さんも。めいめいの体の中で心臓が一生懸命働いて、そして十萬 km、地球を二回半まわるような長い血管を血液がものすごい速さで流れて、細胞に酸素とか栄養を送って、それで肺で酸素と炭酸ガスを入れ替える。腎臓でこして尿をこしらえる。そうして生命と健康の働きを毎秒毎秒してくれているんですよ。それをいつも感じるかどうかなんです。自分に一生連れ添って、毎秒毎秒休みなく身を粉にして働いてくれる身体。そういうふうに見方を変えて欲しいということなんです。いままでは外の方に、相手ばかり、風景ばかり見ていたのを身の内に目をやって、そして自分の身体が命が、毎秒毎日作られているかを見て下さい。

僕はだから身体は命の工場だと言います。火水風と食べ物を燃料にして心臓が動き脳が活動しありとあらゆる細胞が活性化して生命と健康が作られて保たれています。その工場が一生懸命頑張って動き続けてくれているのに、ほとんどの人は無頓着、無神経、無理解。私自身がそうだから偉そうに

言えない。ただ、私は時々おやさまに教えてもらって自分の身体に対する見方・考え方を見直す。おやさまからすればとても不十分でしょうが、それでもちよつとまじだと思っんです。

例えば、タバコ吸う人いますよね、お酒をガブガブ飲む人いますよね。しかし、例えば悪い煙、トラックの排気ガスがこの部屋に入ってきたとしたら、皆さんどうします。僕の話なんか聞いてられない、すぐ逃げ出しますよね。タバコを吸うということは悪いガスや煙を体の中に入れるんやから肺はたまりません。えらいこつちや、苦しい、早く逃げたいと思っけど、肺は逃げられない。辛抱するしかない。タバコを吸う人の肺、お酒をがぶ飲みする人の胃や肝臓はもう本当にどんなに辛抱してるか分からない。逃げたいけれど逃げられない。しかし、とうとう逃げる時がある、それが切除の手術です。

おやさまの教えからすると、例えば、体に対するものの見方、使い方が自然と変わるはずなんです。それが信仰、天理教の信仰の一番大事なところなんです。ものの見方、身体に対するものの見方・考え方が変わって生き方・使い方が変わる、そのためにおやさまはこの教えを教えて下さったのです。家

族に対するものの見方・考え方、世の中に対するものの見方・考え方が変わる、それでおのずと生き方が変わる。そのための信仰なんです。

もとの話に戻りますが、北田コマさんがやつぱり頼りはお医者さんや薬や栄養やと思う。ものの見方を変えるところとがいかに難しいかです。

「ちよと話、神の言うこと聞いてくれ」であって、人間の言うことはもう神様は言わなくても分かっておられます。何が欲しいとか何をして欲しいとか、見抜き見通しですからもう十分にみんな受け取って下さっています。それを叶えるには神の言うことを聞いてものの見方・考え方として生き方を変える。その典型的な例が父と母なんです。そう簡単には分からないし、変わらない。それを必死におやさまについて行って、実行に励んだ。で、ものの見方が変わった、生き方も変わった。だから結果として助からない命も助けてもらった、子供の命も助けてもらった、運命が変わった、という本なんです。是非何度も読んで率直な感想や意見を聞かせて下さい、そして人にもお勧めしてもらいたいと思っます。ありがとうございました。

☆お知らせ☆

☆ 7月26日（月）9時 本部月次祭（祭典後は登殿参拝できます）

☆ 7月29日（木）18時 詰所祭（在住者のみにてつとめます）

☆ 8月1日（日）女子例会・はるのひ会＝休会

☆ 8月8日（日）9時半 おぢばがえりひのきしんと男子例会（詰所）

☆ 8月18日（水）10時 女なりもの勉強会（どなたでも参加できます）

☆ 8月22日（日）前日準備ひのきしん、神名流し（夕つとめ後）

☆ 8月23日（月）11時 《月次祭》

☆ 8月29日（日）別席日（教会を11時出発）

☆ 8月29日（日）詰所祭（在住者のみにてつとめます）

※ 《こどもおぢばがえり》《学生生徒修養会》は中止です

☆ 9月23日（木・祝）芝ふみ・初代会長夫人20年祭（月次祭祭典後）

☆ 11月23日（火・祝）教会創立60周年記念祭

☆ 人生とは、生涯かけての心の成人・自分づくり

☆ 信仰とは人生観・世界観をみがきつづけること

そのために、用意されているのが

・おぢばがえり ・基礎講座 ・別席 ・三日講習会 ・修養科 ・講習

○ 修養科をおすすめしましょう！（毎月、25日までに申し込み）

・若い方＝これからの人生の基礎固めとして

・年配の方＝人生の美しい集大成のために